

2017 年 報

社会医療法人 大道会

目 次

| | |
|---|-----|
| 1. 巻頭言 | 1 |
| 2. 全体報告 | 4 |
| (1) 長期経営方針、中期経営戦略、法人年表、法人組織図 | 5 |
| (2) 各施設概況 | 11 |
| (3) 施設別・職種別 人員一覧表 | 13 |
| (4) 総会資料 | 15 |
| 3. 各施設報告 | 21 |
| (1) 森之宮病院 | 22 |
| (2) ボバース記念病院 | 260 |
| (3) 帝国ホテルクリニック | 323 |
| (4) 大道クリニック | 333 |
| (5) 森之宮クリニック | 339 |
| (6) 介護老人保健施設 グリーンライフ | 348 |
| (7) 在宅事業部 | 364 |
| (訪問看護ステーションおおみち、訪問看護ステーション東成おおみち、 ケアプランセンター城東おおみち、ケアプランセンター東成おおみち、 東中浜ケアプランセンター、レンタルケアおおみち) | |
| 4. 法人内教育研修活動実績 | 390 |
| (1) 本部（本部法人外研修参加状況・新入職員研修・キャリア入職者研修・ 昇進者研修・未来創造プロジェクト） | 391 |
| (2) 神経リハビリテーション研究部 | 400 |
| (3) ボバース講習会活動 | 404 |
| (4) 健康教室 | 407 |
| 5. 学術業績一覧 | 410 |
| (1) 学会発表 | 411 |
| (2) 講演会・研修会講師 | 417 |
| (3) 論文発表 | 422 |
| (4) 著書 | 425 |
| (5) 研究助成金 | 428 |
| 6. 法人内表彰授与実績 | 430 |

1. 卷 頭 言

社会医療法人大道会の年報は、次年度の上期に発刊する体制がようやく整い、よりタイムリーに法人の活動を報告できるようになった。平成29年度の法人のトピックスとして、全法人で22年度より取り組んできた大道会未来創造プロジェクトのうち、「課題解決ワークショップ」の集大成として、6月に日経BP社より「医療・介護現場の課題解決型リーダー育成メソッド」が出版されたことが挙げられる。私どもが実際にワークショップで使用し、改変を繰り返していたテキストもDVDとして掲載されている。7月に開催された第67回日本病院学会では、発刊を記念したシンポジウム「組織の課題解決スキルを高める仕組み～課題解決手法の共通言語化とマトリックストレーニングシステムの構築～」を企画・発表し、好評を博した。また、平成30年度のボバース記念病院と森之宮病院、大道クリニックの機能再編に向けた計画も順調に推移し、それぞれの設計とボバース記念病院の改修着工、法人共通ID化に向けた電子カルテを含むインフラの整備、職員や利用者に対する説明、30年度以降のキャリアパスを意識した人員配置計画など、日々休むことない取り組みが続いている。

森之宮病院では、9月に3回目となる日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査を受審し、本体審査では109項目中18項目、付加機能(リハ)では48項目中8項目でS(優れている)評価を獲得するなど、高い評価をいただくことができた。今後とも継続した改善活動に臨みたい。社会医療法人としての救急機能も概ね順当に維持されている。心臓血管センターでは、血管造影装置の更新があり、インターベンション数の増加とともに、患者や職員に対して安全で効率の良い医療体制がさらに具現化された。また、URおよび城東区と取り組んできたスマートエイジング・シティー・プロジェクトにおいては、11月に森之宮病院でのセミナーとURモデルルームの見学会を開催し、地域包括ケアシステム構築への取り組みを発信した。ボバース記念病院は、4月に荒井洋新院長が就任し、30年度の機能再編に向けた動きが加速している。9月には3階病棟を一般病棟入院基本料10:1から障害者施設等入院基本料10:1に変更し、成人や年長者の障がい者の受け入れを開始した。大道クリニックでは、睡眠時無呼吸症候群検査を担う新任医師が着任した。新規透析患者の安定確保のため、法人内外との連携を推進している。グリーンライフは、入所者用のベッドの更新・クロス貼り替えなど、より快適な生活環境の確保とともに、在宅復帰促進を中心とした中間施設としての役割を果たすべく、取り組んでいる。在宅事業部では、訪問看護の拡大、在宅看取り実績の蓄積など、確実に大道会の地域包括ケアシステムの要としての役割を高めてきた。帝国ホテルクリニックでは、受診者構造の変化に対応して日帰りドックを中心とした運用にスイッチし、安定した収益を得ている。また、今年度よりインバウンド需要へのサービス提供も開始した。森之宮クリニックでは、29年3月の大阪国際がんセンターの移転後の受診者数確保とともに、IAEAワークショップの見学受け入れやアミロイドPETへの対応など、新たな取り組みも始まっている。

高度で先進的な医療を目指して、新規治療の導入や研究活動も活発に行われている。森之宮病院の心臓血管センターでは、ステントグラフトや末梢動脈血管内治療に関するデバイスの国際治験を順調に継続している。神経リハビリテーション研究部では、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)に加えて、国立情報通信研究機構(NICT)の委託事業を受託し、国際電気通信基礎技術研究所(ATR)とリハビリテーションロボット開発を継続して

いる。厚生労働科研の成果として、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の診療ガイドラインへの執筆も行った。東大や理研との筋シナジー研究や脳波同期研究で、脳損傷後の機能回復を新たな視点から捉える試みにも進捗が見られた。また、神経リハビリテーション研究部の医師らが中心となり、神経リハビリテーションの本邦初の教科書として、「脳卒中の神経リハビリテーション 新しいロジックと実践」を中外医学社から出版した。

今年度からは、冊子としての年報から、pdfとしての配布に切り替え、一般の方を含めて、広くホームページからダウンロードできるよう、運用を改めた。大道会の事業の透明性をさらに高めることに貢献すると考えている。なお、活動の詳細に関しては、各施設からの報告をご覧ください、忌憚のないご意見、ご指導、ご鞭撻を賜れば幸いである。

社会医療法人大道会副理事長・森之宮病院院長代理 宮井 一郎